

2022年度 昭和大学 I期

【 講 評 】

大問4問だった昨年度に対し、今年度は大問3問の構成。問題数は減ったものの、大問1の文章は、抽象度が高く、選択肢、記述とも難解といえる。大問2と大問3は、文章自体平易だが、筆者が述べたいことを推察して記述する問題があり、難易度を高めている。したがって、普段から抽象度の高い文章を読解し、内容を正確に把握することに加え、国公立2次で出題される記述問題を解く経験を重ねておく必要がある。

【 解 答 】



設問1 ウ

設問2 オ

設問3 ア

設問4 イ

設問5 オ

設問6 オ

設問7 前者は、非人格的で交換可能な存在としての自我であるのに対し、後者は、人格的で交換不可能な存在としての自我である点が違う。(60字)

設問8 エ

設問9 ア

設問10 思春期に自己の独立した主観性を意識することは、根源的に結ばれていた他者との関係の断絶を意味するから。(50字)

設問11 エ

設問12 エ

設問13 2

設問14 A=オ B=ウ C=ア D=イ

設問15 自己と他者は、相互主観性という根源的關係によって形成される。(30字)

設問16 a=羞恥 b=惰性 c=皮膚 d=靈妙 e=遊戯 f=遇 g=交錯 h=相即 i=貫徹 j=挫折

二

設問 1 腐敗して毒性を持つ食べ物を回避すること

設問 2 イ

設問 3 食べ物が、民族や国民を区別したり、敵と味方を分けたりする手段のひとつとなる

設問 4 ウ

設問 5 ア

設問 6 外国人による侵略という事態を連想させる

設問 7 目の前にある相手の文化を受け入れること

設問 8 発酵 醸成 無軌道 偏見

三

設問 1 エ

設問 2 ア

設問 3 ウ

設問 4 イ

設問 5 エ

設問 6 イ

設問 7 無資格の医師が不適切な治療で患者の身体に深刻な損傷を与えた場合、損害賠償のルールを厳格にしても取り返しがつかないし、「行われなかった医療」を問題にするならば、国民皆保険制度を導入すればよいだけである。(100字)

設問 8 オ

設問 9 資源配分の効率性

設問 10 イ

設問 11 ウ

設問 12 正当化できる十分な理由

設問 13 手段がなければ、「何もしない」ことが最善の選択肢かもしれない(30字)

設問 14 無害であることは、無益な治療を行うこと(19字)

お問い合わせは ☎0120-302-872

<https://keishu-kai.jp/>